

共生型の福祉へ拠点

八幡平市のNPO法人里・つむぎ(八幡平(高橋和人事理長)は4月1日、認知症高齢者と身体や知的障害がある人が一つ屋根の下で生活するグループホーム「白山の里」を同市街頭に開所する。運営制度がそれぞれ異なるため、現段階では設備の共用はできないが、他県では条例で認められている例もあり、県や市に働き掛けながら年齢や障害を超えた共生型施設を目指す。

八幡平市のNPO法人



認知症高齢者と障害者の共生を目指し、4月1日に開所するグループホーム「白山の里」

あす「ホーム」を開所 年齢、障害超え地域生活

「白山の里」は木造2階建てで、延べ床面積は約390平方メートル。国の老人福祉施設等整備事業費補助金などを活用し、約8千万円か

けて建設した。1階は認知症高齢者、2階は障害のある女性が入居する。各階に台所、リビングダイニング、ランドリー、風呂などを完備、1階に9室、2階に5室それぞれ居室がある。1階リビングダイニングには、自然なぬくもりや炎の揺らめきで心を癒やしてもらおうとまきストーブを設置。周辺は田んぼに囲まれ、掘りごたつ式の1階談話室からは、岩手山が真正面に見える。ヘルパー2級以上の介護職員が24時間体制で排せつ、入浴など日常生活全般のケアに当たるほか、地元産の米や野菜を使った食事を提供。市内の病院とも提携し、通院や薬受け取りの援助も行うという。

認知症高齢者は介護保険制度、障害者は障害者総合支援法と、異なる制度を適用した運営となるため、相互の交流には法律の壁が立ちあがっている。

一方、他県では条例で柔軟運用を認めている事例もあり、市や県と協議を重ねていく予定だ。高橋理事長は「障害が異なる人同士が一つ屋根の下で生活する場

所の提供は県内で初めてではないか」とし、「施設ではなく『住まい』。入所者が年齢や障害を超えて地域に溶け込み、共に暮らしたい」と呼び掛ける。4月11日までに、申込用紙と一緒に直接同博物館に持参する。用紙は同博物館や市役所に設置しているほか、市のホームページからもダウンロードできる。問い合わせは同博物館(0195・631122)へ。

八幡平市の魅力写真で表現して市博物館が募集

八幡平市吹田の市博物館は4月25日から、企画写真展「私の好きな八幡平市」を開く。市内に居住、または働いたり活動している個人、団体から「とっておきの一枚」を募集している。

作品は市内で撮影した風景やもの、人で、未発表に限る。応募は1人1点。サイズは四つ切りでパネルか額装仕上げとする。

撮影者氏名、作品の題名、撮影場所と50字以内のコメントを明記

課題を広域で連携しながら改善しようとする

桑

農繁期を前に敬老会 八幡平市画 住民が企画



同博物館の外崎理紗

学芸員は「八幡平市で生活する方々から、新たな魅力発見にもつながる自慢の一枚をどんとん持ち込んでもらいたい」と呼び掛ける。4月11日までに、申込用紙と一緒に直接同博物館に持参する。用紙は同博物館や市役所に設置しているほか、市のホームページからもダウンロードできる。問い合わせは同博物館(0195・631122)へ。